様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 ２１ 日現在

機関番号：１７４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2014～2015
課題番号：２６８８４０３５

研究課題名（和文）現代倫理学における反合理主義的アプローチのメタ倫理学的研究

研究課題名（英文）A metaethical anti-rationalism approach on modern moral philosophy

研究代表者
佐藤　岳詩（SATO, Takeshi）

熊本大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：６０７３４０１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　近年、新アリストテレス主義などによって、従来英米圏の倫理学で支配的だった合理主義に多くの問題が指摘されている。それら反合理主義的なアプローチは一定の支持を集めたものの、合理主義を決定的に論駁するには至らなかった。本研究では、従来、規範倫理学のレベルで語られることが多かった反合理主義をメタ倫理学のレベルで検討することで、改めてその妥当性を検討した。
　その際、反合理主義の原点をG.E.M.アンスコムの倫理学に求め、その基礎を明らかにしつつ、その立場を継承したB.ウィリアムズの倫理学をR.M.ヘアやT.ネーゲルの合理主義と対比し検討することで、両者が対等な関係に立ちうることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Rationalism in Anglo-American moral philosophy which has been recognized as authority is, recently, challenged by anti-rationalism. Its criticisms are persuasive to a certain extent, but failed to take the place of rationalism. This study focused on the metaethical foundation of anti-rationalism to reexamine the validity of it.
 Firstly, we found the roots of anti-rationalism in the theory of G. E. M. Anscombe. Secondly, we compared the theory of B. Williams who succeeded Anscombe's thought with rationalism provided by R. M. Hare and T. Nagel. We then concluded that anti-rationalism cannot suggest a knockdown argument against rationalism but it can stand on an equal footing with it.

研究分野：メタ倫理学

キーワード：メタ倫理学

１．研究開始当初の背景

英米圏の現代倫理学では、これまで R.M.ヘアや J.ロールズに代表される合理主義が主流となってきた。しかし、昨今、それら合理主義の倫理学に対して、様々な形で疑義が呈されるようになってきた。

それを受けて提唱されたのが、徳倫理学やケアの倫理などの反合理主義的な立場である。これらの立場の特徴は、倫理の根拠を普遍的で行為者に中立的な理性や合理性におかず、愛情や恥、罪悪感などの感情や共感、他者との関係性やアイデンティティの感覚など、行為者に相対的な事柄におくことにある。

反合理主義は規範倫理として一定の評価を得るに至る。しかし、結局のところ、合理主義にとって代わるものとまではならなかった。とはいえ、彼らの考えの方向性が根本的に誤っていたとは思われない。そこで、改めてその原因を探り、合理主義と反合理主義の関係を捉えなおすことが急務と考えられた。

２．研究の目的

上記の背景を受けて、本研究は以下の二点を目的に掲げた。

（1）現代倫理学において近年提唱されているさまざまな反合理主義的アプローチに対し、メタ倫理学の観点から分析を加え、その理論的基礎を明らかにする。

（2）上で得られた成果を生かし、反合理主義的アプローチが依拠すべきより説得的なメタ倫理学的理論を提示する。

３．研究の方法

本研究では、上記の目的を達成するために、二つの目的に合わせた二段階の方法によって、研究を遂行することとした。

(1)従来の反合理主義がもつメタ倫理学的前提を、特にＢ．ウィリアムズなどを中心に、一次文献の調査と先行研究のサーヴェイを中心とした文献研究の中から明らかにする。さらに、これまで十分に検討されてこなかったものの、ウィリアムズらの議論の源流にあって両者に大きな影響を与えたとされるE.アンスコムの道徳理論の検討を集中的に行う。これによって、反合理主義の立場を明確化する。

（2）上で得られた成果をもとに、R.M.ヘアらの合理主義的なアプローチと対比することで、両者のあるべき関係を検討する。

（3）様々な研究会などの活動を通して、問題意識を共有したネットワークの構築を図る。

４．研究成果

本研究では、上記の方法に照らして研究を遂行した結果、以下の成果が得られた。

（1）反合理主義のメタ倫理学的前提について

反合理主義のメタ倫理学的な立ち位置を明確にするため、その太祖とも言われているE.アンスコムの理論の検討を行った。

アンスコムの立場は従来、古典的論文“Modern Moral Philosophy”を中心として、帰結主義に代表される合理主義、理性主義への批判という側面のみが取りざたされ、その積極的主張や、メタ倫理学的な立ち位置は必ずしも論じられてこなかった。そこで本研究では、これまであまり焦点が当てられてこなかった、“Modern Moral Philosophy”以外の論文をとりあげ、同論文を補完する形で検討することで、彼女の立場が有するメタ倫理学的前提を明確化することを行った。

彼女の考えでは、帰結主義的な議論は、様々なものを欠いている。たとえば、倫理を基礎づける源泉であり、実質的な内容であり、倫理的に世界をみるための枠組みである。これらを欠いていることに気づかないがために、現代倫理学は浅薄であり、根を持たない、その場しのぎの偶然的なものとなっている。

では、彼女が代案として考えるものは何か。あるいは、彼女が倫理の根幹に据えるものは何か。それは人間の生である。この生は私たちにとって根本的な世界の見方を与えるものであり、ここからさまざまな倫理が必然的なものとして生じる。たとえば、十全な生は他者との十全なコミュニケーションを必要として、そこから言語ゲームとしての約束制度が要請される。

なかでも、倫理の規則は「あなたは～できない」という「停止様相」において示されるというアンスコムの議論は、きわめてユニークで、重要なものである。合理主義的なアプローチでは、一般に倫理の規則は「あなたは～すべきでない」という勧めの形で与えられる。しかし、アンスコムの考えでは、倫理とはそのような勧めによって表現されるものではない。むしろ、それを行えば私たちの十全な生が損なわれるものが倫理的な禁止の対象であり、それは発話者の恣意的な勧めによって表現されうるものでは決してなく、むしろ、私たちにとって必然的なものとして現れるものなのである。

ここで、他の反合理主義的なアプローチをとる論者と、アンスコムの立場を比較してみても、フットら徳倫理学者たちが、「不作法」などの濃い概念や「勇気」「親切」などの徳の概念からスタートするのに対し、アンスコムの道徳理論は言語ゲームの実践の中で生み出される「できない」という停止様相をその中心に置く。道徳的にまっとうな人は、強

い意志で悪に打ち勝っているのでもなければ、何らかの徳の概念から行為するわけでもない。彼は端的に悪事が「できない」のであり、また他の人の「できない」を妨害しない。こうした人物が理想とされるという意味で、アンスコムの立場は独特であり、この考え方が、後のB.ウィリアムズに大きく影響を与えることになる。

とはいえ、批判的な観点から言えば、彼女が後年提供したニーズ論も決して絶対的な枠組みではなく、あくまで一つの世界の見方に過ぎない。たとえばフットやハーストハウスの提示したような自然主義よりも、アンスコムのニーズ論が優れた見方であるかは議論の余地がある。結局、枠組みとは何であるのかについての具体的な説明を、アンスコムは与えていないので、その点に関して考察する余地は残った。

しかし同時に、この必然性と枠組みへの注目という論点は、特にその後のB.ウィリアムズやJ.マクダウェルの諸論考と対比した際に、まさに彼らの思想を貫く支柱となっていることが、明らかとなった。これらのことから、反合理主義的なアプローチにおいて決定的に重要な要素であることもまた、改めて示された。

(2) 反合理主義的なアプローチと合理主義的なアプローチの関係について

上の成果をもとに、多くの部分でアンスコムの議論を引き継いでいるウィリアムズの理論の合理主義批判の検討を行った。

従来、ウィリアムズの"A Critique of Utilitarianism"は、一般的な規範倫理学における功利主義批判の一形態として捉えられ、メタ倫理学上の議論の俎上に載せられることは少なかったように思われる。しかし、アンスコムの議論を踏まえ、また後の『生き方について哲学は何が言えるか』を視野に入れて考えた場合、彼の議論は、多くのメタ倫理学的な示唆を含むものであり、また(1)で述べた「枠組み」の問題を彼なりに発展させて論じたものと読むことが可能であることがわかった。

そのような観点からウィリアムズの議論を再構成し、功利主義者たちの応答と対比して考察した結果、以下の成果が得られた。

第一に、ウィリアムズの批判は、功利主義者たちの中の特定のメタ倫理学的前提を批判しており、それに対してあくまで規範倫理学の枠内で応答しようとした功利主義の反論は基本的に的を外したものにしかならない。

第二に、ウィリアムズの批判は、上の意味で功利主義に対する妥当な論難を構成しうるものであったが、同時に精査していくと、彼自身の議論に対しても同じ批判が構造的に当てはまる。

ここから、本研究の目的である、反合理主義的なアプローチが依拠すべきメタ倫理学理論ないし、合理主義と反合理主義的なアプローチのあるべき関係については、次のような結論が得られた。

まず、反合理主義的なアプローチを取る論者は、自分たちの立場が、合理主義的なアプローチよりも優位であるという主張を捨てる必要がある。むしろ、両者はまったく別の枠組みで世界を捉えていること、その際、両者は対等なものであることに焦点を当てるべきである。優位化されるべき論点は行為や価値などの対象化できるレベルの事柄ではなく、世界の捉え方そのものである。

このことは、今後の展開として、1950年代にフット、アンスコムとは別の仕方で、合理主義のヘアを批判していた哲学者 I.マードックの理論の重要性を再認識させるものとなった。彼女はプラトニズムの立場をとって、注視(attention)や見え方(vision)などの概念に注目しながら、フットらの新アリストテレス主義からも距離を取って、独自の哲学を形成した。その精神は、C.ダイアモンドらの新ウィトゲンシュタイン派に受け継がれることとなる。これは、従来の合理主義的なアプローチと反合理主義的なアプローチをさらに一歩外側から俯瞰してとらえる立場と考えることができる。したがって、両者の争いが膠着状態に陥っている現在、まさに見え方という論点から、両者の総合をより深めることで、あらためて現代倫理学を一歩先へ進めることが可能になるという示唆が得られた。

５．主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

・<u>佐藤岳詩</u>「倫理学における内的視点と外的視点　〜　「全一性に基づく反論」と間接功利主義」,『西日本哲学年報』第23号, 西日本哲学会編, 査読あり, pp. 91-108, 2015年10月,

・<u>佐藤岳詩</u>「アンスコム、"Modern Moral Philosophy"の処方箋」,『先端倫理研究』, 査読あり, 第10号, 熊本大学倫理学研究室紀要,pp. 5-24, 2016年3月

〔学会発表〕(計2件)

・佐藤岳詩「全一性、道徳的わがまま、帰結主義」, 西日本哲学会 第65回大会個人研究発表, 2014年12月6日　於山口大学

・佐藤岳詩「普遍的指令主義の帰趨とその意義：R.M.ヘアと 20 世紀イギリスのメタ倫理学」, 日本イギリス哲学会 第39回大会 シンポジウム「20世紀イギリス倫理学の再評価ー直観、情動、言語をめぐって」, 2015年3月29日, 於甲南大学

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤岳詩　　　　　（SATO, Takeshi）
熊本大学大学院社会文化科学研究科准教授
研究者番号：60734019

(2)研究分担者
( )

研究者番号：

(3)連携研究者
( )

研究者番号：